みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰
令和７年度 受賞施設

Minato Model Carbon Dioxide Fixation Certification Award 2025

みなとモデル二酸化炭素固定認証制度 とは

- みなとモデル二酸化炭素固定認証制度は、区内で新たに建てられる建築物（延べ面積5,000㎡未満は任意）や、オフィス、店舗等のテナントについて、床面積１㎡につき、0.001㎥以上の協定木材をはじめとする国産木材の使用を促し、国産木材の使用量に応じて★、★★、★★★の３段階で二酸化炭素固定量を認証する制度です。

- 本制度では、区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結した森林資源を豊富に有する自治体（以下「協定自治体」といいます。令和８年３月31日現在 80自治体）から産出される「協定木材」の使用を推奨しています。

- 都心に位置する港区の建築物等に持続可能な森林で伐採された木材の利用を促進することで、区内の二酸化炭素固定量を増やすとともに、森林整備の促進による二酸化炭素吸収量の増加を図り、脱炭素社会の実現に貢献することを目的としています。



みなと森と水ネットワーク会議

「みなと森と水ネットワーク会議」は協定自治体で構成した連携組織で、英語名「UNIFIED NETWORKING INITIATIVE FOR MINATO “MORI&MIZU” MEETING」の頭文字をとった、「uni4m（ユニフォーム）」が愛称です。

uni4m

期　間 H23.10.1.～R7.3.31	木材使用量の基準値			認証件数
	基準値 ★認証書の発行 床面積１㎡につき0.001㎥	アップグレード値① ★★認証書を発行 床面積１㎡につき0.005㎥	アップグレード値② ★★★認証書を発行 床面積１㎡につき0.010㎥	
民間建築物 他	231	17	10	**258**
区有建築物	0	16	19	**35**
認証建築物　累計	**231**	**33**	**29**	**293**
テナント認証　累計	**9**	**8**	**12**	**29**

みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰 とは

港区では、平成23年10月に「建築主におけるみなとモデル二酸化炭素固定認証制度」、平成25年9月に「テナント事業者におけるみなとモデル二酸化炭素固定認証制度」（以下、両制度をまとめて「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度」といいます。）を施行し、協定木材をはじめとする国産木材（以下「協定木材等」といいます。）の建築物等への使用を推進してきました。

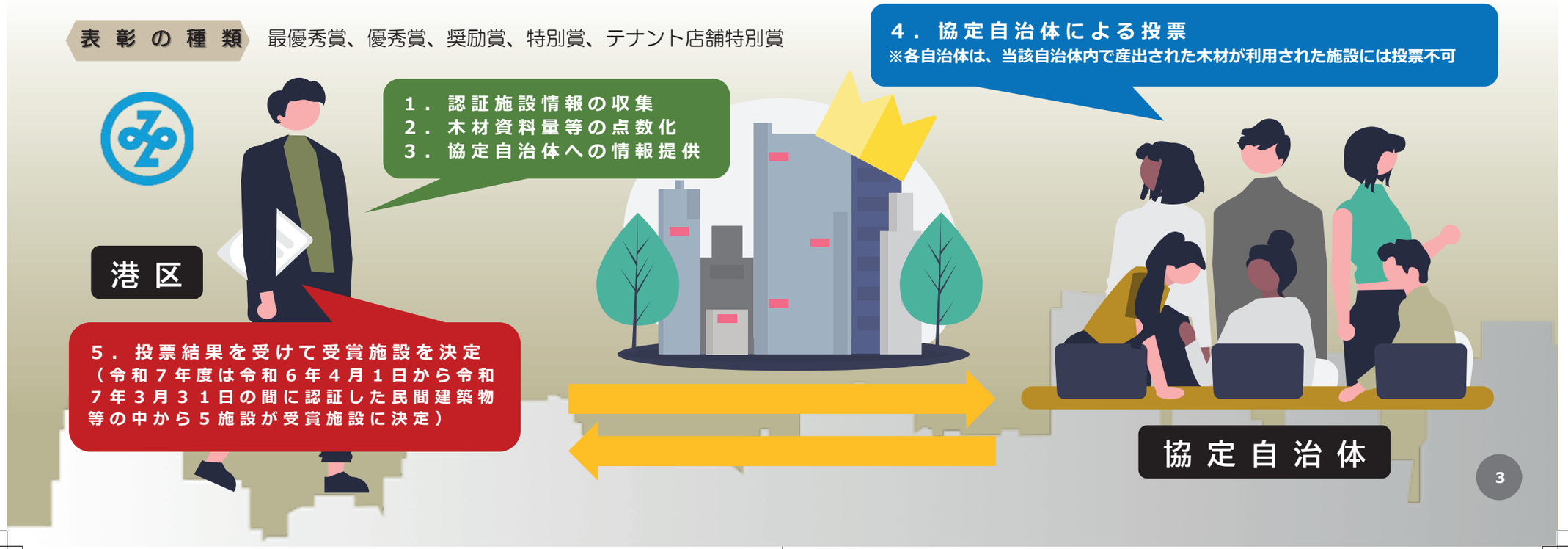
みなとモデル二酸化炭素固定認証制度の施行から１０年が経過し、協定木材等の更なる活用、国内の森林整備及び森林の二酸化炭素の吸収量の増大の一層の促進に資することを目的として、令和４年4月に「みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰」を創設しました。

表彰対象　前年度に認証した民間建築物及びテナント店舗等（以降、「建築物等」といいます。）

審査・選定基準　みなと森と水ネットワーク会議会員である協定自治体が下記の選定基準に基づいて投票し、投票結果を受けて港区が受賞施設を決定します。

① 木材の使用方法が公開性や視認性、デザイン性に優れ、創意工夫が見られること。
② 先進的な技術を利用して木材を使用していること。
③ 木材の活用に先導的な役割を果たしていること。
④ 協定木材等の利用に積極的に取り組んでいること。

表彰の種類　最優秀賞、優秀賞、奨励賞、特別賞、テナント店舗特別賞



みなとモデル二酸化炭素固定認証制度年表

年	月	みなとモデル二酸化炭素固定認証制度に関連したできごとなど	協定自治体数（※）
2007年（H19）	11	第１回みなと森と水会議	
2009年（H21）	1	第２回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2009	8
	10	みなと森と水ネットワーク会議発足	15
	12	みなとモデル二酸化炭素固定認証制度検討開始	
2010年（H22）	2	第３回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2010	15
	10	「公共建築物等における木材の利用の促進に関する法律」施行	
2011年（H23）	2	第４回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2011	23
	10	**「建築主におけるみなとモデル二酸化炭素固定認証制度」開始**	32
2012年（H24）	2	第５回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2012	47
	4	「港区建築物等における協定木材等利用推進方針」策定	
	10	第６回みなと森と水会議	63
2013年（H25）	8	**「テナント事業者におけるみなとモデル二酸化炭素固定認証制度」開始**	
	11	第７回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2013	69
2014年（H26）	10	第８回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2014	76
2015年（H27）	12	第９回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2015	75
2016年（H28）	11	第10回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2016	78

※ 協定自治体数に港区は含んでいません。

年	月	みなとモデル二酸化炭素固定認証制度に関連したできごとなど	協定 自治体数
2017年 （H29）	10	第11回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2017	77
2018年 （H30）	4	**港区テナント店舗等の木質化モデル創出事業（助成金交付事業）開始**	
	11	第12回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2018	76
2019年 （H31）	11	第13回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2019	78
2020年 （R2）	4	「港区建築物等における協定木材等利用推進方針」改定	
	10	第14回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2020	82
	12	みなと森と水ネットワーク会議が「ウッドデザイン賞」を受賞	
2021年 （R3）	3	みなと森と水ネットワーク会議が「ウッド・チェンジネットワーク」にオブザーバー会員として参加	
	9	みなと森と水ネットワーク会議が「ウッド・チェンジ協議会」へ参加	
	10	「公共建築物等の木材利用促進法」が「都市（まち）の木造化推進法」へ改正	
		第15回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2021 みなとモデル二酸化炭素固定認証制度施行から10年が経過	81
2022年 （R4）	4	**みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰要綱の制定**	
	10	第16回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2022 令和4年度みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰式（第１回）	80
2023年 （R5）	3	「港区建築物等における協定木材等利用推進方針」改定	
	10	第17回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2023 令和5年度みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰式（第２回）	84
2024年 （R6）	10	第18回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2024 令和6年度みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰式（第３回）	82
2025年 （R7）	10	第19回みなと森と水会議、みなと森と水サミット2025 令和7年度みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰式（第4回）	80

受賞施設

最優秀賞＜１件＞

１．愛宕山の休憩所・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P. 7

優秀賞　＜１件＞

２．三田ガーデンヒルズ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.8

奨励賞　＜１件＞

３．芝浦ダイヤビルディング・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.9

特別賞＜１件＞

４．THE LINKPILLAR 1
（TAKANAWA GATEWAY CITY）・・・・・・　P.10

テナント店舗特別賞＜１件＞

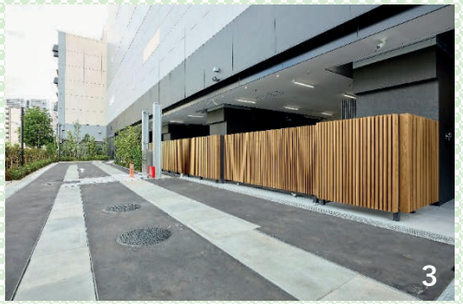
５．HIDA 東京神谷町店・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・　P.11













愛宕山の休憩所

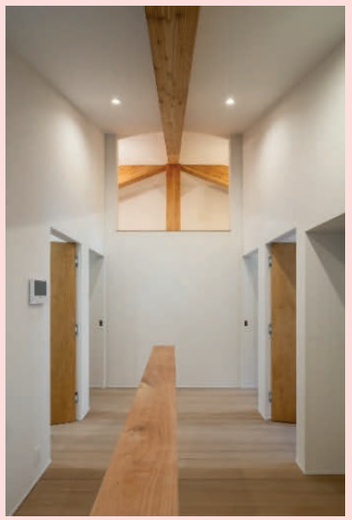
最優秀賞



建築主： 宗教法人　愛宕神社
設　計： 合同会社　大石雅之建築設計事務所
＜建物概要＞
◆ 建物用途： 神社(休憩所、宿直所)
◆ 所在地： 港区愛宕1丁目5番3号
◆ 延べ床面積： 202.93　m2
◆ 国産木材総使用量：13.38 m3
◆ うち協定木材使用量：0 m3
◆ 1m2あたりの木材使用量：0.0659 m3（★★★）
◆ CO2固定量：9.56 t-CO2
◆ 樹種／産地：
柱、梁(カラマツ　11.26／国産合法木材)
間柱(スギ　2.10／国産合法木材)
柱(ヒノキ　0.02／国産合法木材)









【建築主等コメント】

地上2階建ての神社の休憩所です。神社の緑豊かな環境と調和するよう、大断面集成材の構造材を現しで用いた構成が特徴です。神社の伝統的意匠を踏まえた変形方行屋根と、現代的な中立性をもつ白い壁によって、境内と高層ビル群の双方の景観を受け止め、緩やかに繋いでいます。内装にも国産材を多用し、温もりある空間と木材資源の活用を実現しました。

【審査コメント】

当該施設は、神社の境内に建設された木造2階建ての休憩所であり、広く一般に木材の利用状況が伝わる建物となっている。また、建物の柱や梁などの構造材を、壁や天井で隠さずにそのまま見せる仕上げとしている点に木材の利用方法として創意工夫が見られ、非常に優れた事例となっている。

三田ガーデンヒルズ

優秀賞



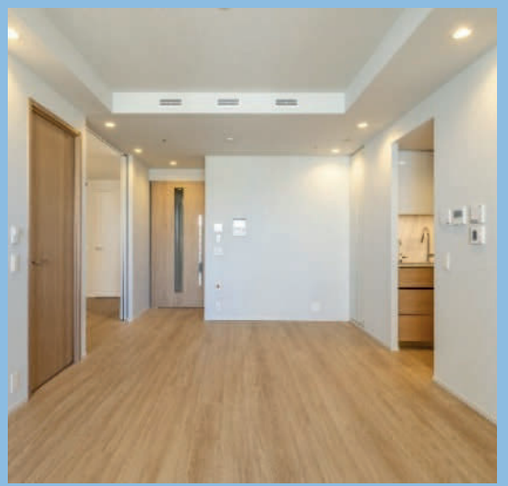
建築主： 三井不動産レジデンシャル株式会社
三菱地所レジデンス株式会社
設　計： 大成建設株式会社一級建築士事務所
＜建物概要＞

- ◆ 建物用途： 共同住宅 駐車場 飲食店
- ◆ 所在地： 港区三田1丁目4-60
- ◆ 延べ床面積： 148,310.07 m2
- ◆ 国産木材総使用量：715.81 m3
- ◆ うち協定木材使用量：715.81 m3
- ◆ 1m2あたりの木材使用量：0.0048 m3（★）
- ◆ CO2固定量：499.70 t-CO2
- ◆ 樹種／産地：

床下地合板(カラマツ 531.12／北杜市)
床下地合板(スギ 184.68／石巻市)









【建築主等コメント】

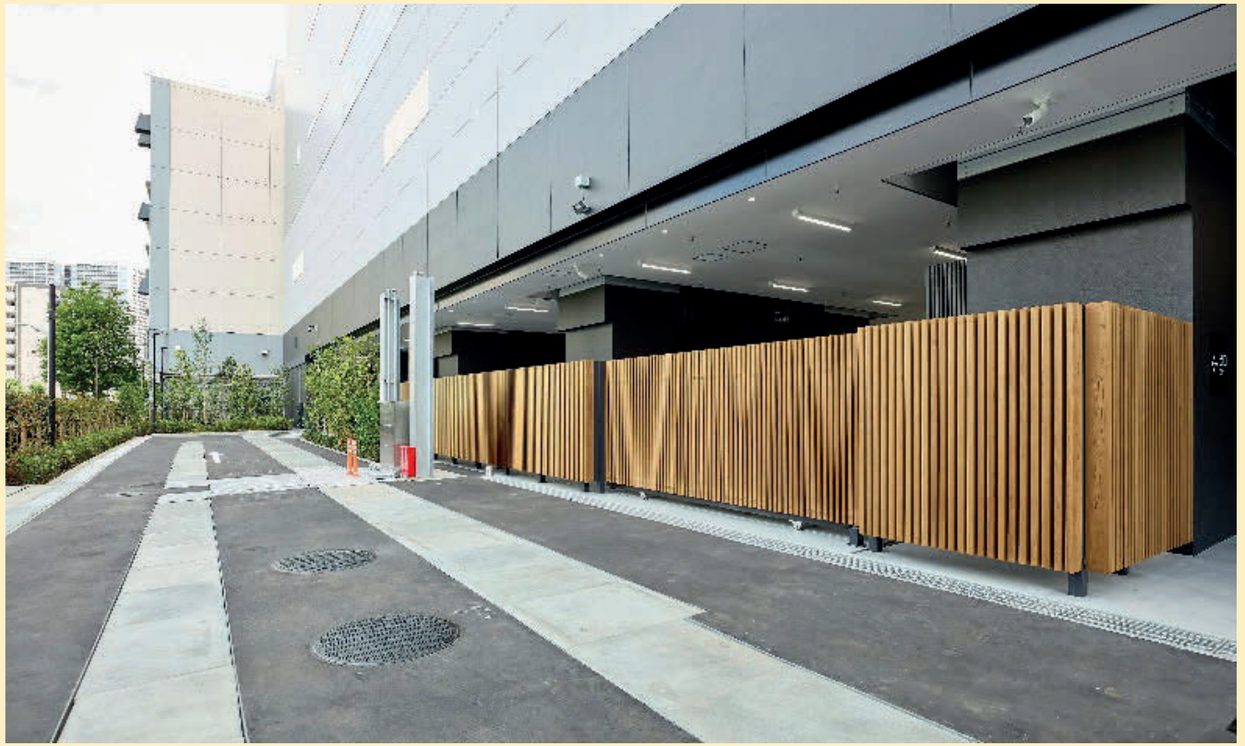
全1002戸の大規模マンションであることを踏まえ、より多くの協定木材を建物内へ固定すべく、住戸の床仕上の基材に使用する方針としました。木材自体は建具・壁・天井の仕上等にも使用していますが、経年劣化に伴う補修やリフォーム等により長期にわたる固定が難しいと考え、意匠部にこだわらず、維持の蓋然性が高い箇所へ協定木材を使用することとしました。

【審査コメント】

木材使用量が多く、そのすべてが協定木材であるため。視認性や内装の木質化という点では他の建築物に劣るが、設計者工夫等に記述があるように、それにはしっかりとした理由があり、木材利用やCO2固定に対する明確なビジョンと信念を感じる。

芝浦ダイヤビルディング

奨励賞



建築主：三菱倉庫株式会社

＜建物概要＞

- ◆ 所在地： 港区
- ◆ 延べ床面積：34,796.8 m2
- ◆ 国産木材総使用量：35.40 m3
- ◆ うち協定木材使用量：22.53 m3
- ◆ 1m2あたりの木材使用量：0.001 m3（★）
- ◆ CO2固定量：20.37 t-CO2
- ◆ 樹種／産地：

  OAフロア（スギ　8.76／国産合法木材）

  外構フェンス

  （スギ　22.53／都城市、東白川村、宍粟市）

  外構支柱（スギ　4.11／国産合法木材）



【建築主等コメント】

街並みの賑わい創出の観点から外構で木材を積極的に活用するよう心がけました。外構では木材を活用する場所が限られるため検討に苦労しました。みなとモデル事務局のご担当者にご相談した結果、樹木の倒木防止用の支柱として活用するにいたりました。結果として木材活用箇所の選択のはばが広がりました。

駐車場の目隠しルーバーに天然木材を利用することにより、前面の外構と合わせて街の景観の賑わい創出に寄与しました。また、外構樹木の倒木防止用の支柱として木材を活用しました。単なる意匠材としての活用にとどまらず、樹木を保護する（品質を守る）役割として木材を活用しました。

【審査コメント】

防犯性・プライバシー・機能性を保ちながら、街並み・景観づくりに配慮した木材利用を推進しており、樹木の倒木防止という本来の役割を損なうことなく、積極的に木材を活用しようとする意志や工夫が高く評価できる。また歩行者などから目につきやすい場所に木材が使用されていて効果的である。

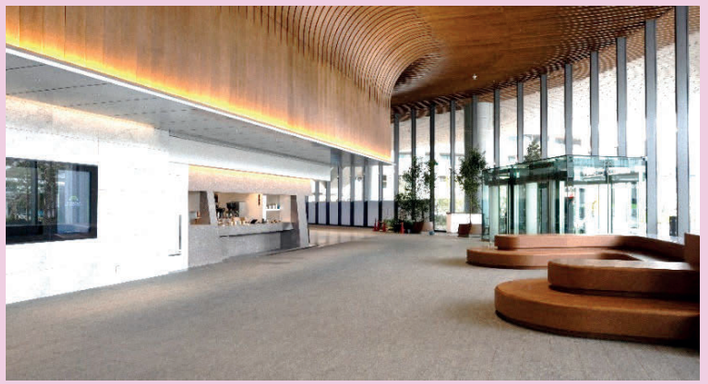
THE LINKPILLAR 1 (TAKANAWA GATEWAY CITY)

特別賞



建築主：東日本旅客鉄道株式会社
設　計：品川開発プロジェクト（第Ⅰ期）設計共同企業体
　　構成員代表者　株式会社JR東日本建築設計
＜建築概要＞
◆建築用途：事務所　物販店舗　ホテル　集会所　飲食店　保育所　巡査派出所
　　自動車車庫　自動車駐車場　その他
◆所在地：港区高輪二丁目21番1号
◆延べ床面積：459，009.62㎡
◆国産木材総使用量：758.99㎥
◆うち協定木材使用量：0㎥
◆1㎡あたりの木材使用量：0．0016㎥（★）
◆CO2固定量：436.92t-CO2
◆樹種/産地：
　OAフロア（スギ　731.09/国産合法木材）
　壁・天井ルーバーMDF（スギ　27.90/国産合法木材）







【建築主等コメント】

　高輪ゲートウェイ駅を中心にオフィス・商業・医療・教育・居住・文化といった機能がすべて徒歩圏内で接続され、歩行者中心の空間設計やモビリティの導入により環境負荷の少ない移動環境の整備により、持続可能なまちづくりを実現しています。木材の利用としては、オフィスフロアのFAフロアの床材やロビーの天井に木材を採用しています。

【審査コメント】

　木材を使用すると、古風な趣を感じさせることが多いが、この建築物は、近代的な外観をしており、木材が使用されているロビーでも、古風を感じさせない今までには見られなかった新しいデザインが施されている。

HIDA 東京神谷町店

テナント店舗
特別賞



建築主･設計者： 飛騨産業株式会社

＜建物概要＞

- ◆ 建物用途：家具販売店
- ◆ 所在地：港区虎ノ門4－3－13
  ヒューリック神谷町ビル1F
- ◆ 延べ床面積：530 m2
- ◆ 国産木材総使用量：3.03 m3
- ◆ うち協定木材使用量：3.03 m3
- ◆ 1m2あたりの木材使用量：0.0057 m3（★★）
- ◆ CO2固定量：102.10 t-CO2
- ◆ 樹種／産地：
  圧密フローリング(スギ 1.32／高山市)
  置き家具(スギ 0.47／高山市)
  置き家具(クリ 0.78／高山市)
  置き家具(ナラ 0.33／高山市)
  置き家具(ブナ 0.03／高山市)
  置き家具(スギ 0.08／浜松市)









【建築主等コメント】

みなとモデル制度認証材を用いた椅子やテーブルなど、自由に触れたり座ることができる家具の展示や、杉を圧縮して硬度を高めた圧縮杉フローリングを敷いた場所を歩けるなど、木をふんだんに使用した落ち着いたインテリアデザインの空間の中で実際に体感できるようになっています。

【審査コメント】

協定木材の産地が明記されているとともに、来店者が製品に自由に触れることができ、直接木のぬくもりを感じることができるため。また、家具の配置方法にこだわりが感じられ、来店者に木の良さが伝わりやすい展示となっている。

受賞施設分布図

※地域名称は一部省略しております。また、施設の位置は港区内におけるおおよその位置関係を示すものになります。
※03芝浦ダイヤビルディングの所在地は非公開



uni4mショールームのご案内

uni4mショールームは、港区と「間伐材を始めとした国産材の活用促進に関する協定」を締結した自治体で構成する『みなと森と水ネットワーク会議（uni4m）』や協定自治体の紹介、協定木材を利用した各種建築建材のカタログやサンプル等を提供している常設の展示スペースです。無料でご利用いただけますので、ぜひお立ち寄りください。

@港区立エコプラザ



uni4mショールームを上から見た様子





●木質化アドバイザー

港区内で国産木材を活用した建物やテナント店舗等を計画されている方は、協定木材を使用した事例の紹介や協定木材製品の情報を提供する木質化アドバイザーにご相談いただけます。
利用方法にお困りの方は、uni4mホームページ（右記QRコード）のお問合せフォームより御予約ください。

www.uni4m.or.jp

みなとモデル二酸化炭素固定認証制度表彰
港区 環境リサイクル支援部 環境課 地球温暖化対策担当
港区芝公園1-5-25 TEL：03-3578-2474

令和８年（２０２６年）３月発行
発行番号　２０２５２１７-５６１１

www.uni4m.or.jp

ミックス
FSC® C108137
dammy